

日刊工業新聞社が中堅・中小企業の優れた経営者を表彰する「第37回優秀経営者顕彰」の贈賞式がきょう15日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで行われる。同顕彰制度は優れた経営手腕により企業を成長させ、日本経済の発展と地域社会に大きく貢献したモノづくり関連の中堅・中小企業経営者を顕彰している。毎年実施しており、今回で37回目を迎える。

# 第37回優秀経営者顕彰

1月16日木曜日  
2020年(令和2年)

## 合同新春パーティー 本社・日本産業人クラブ連合会



日刊工業新聞社は15日、東京・飯田橋のホテルグランドパレスで第37回優秀経営者顕彰贈賞式の後、日本産業人クラブ連合会と合同贈賞式の祝賀会を兼ねた「合同新春パーティー」を開いた。約250人が参加した。

(1面参照) 優秀経営者顕彰選考委員長を務めた坂根正

日刊工業新聞社は「世界は一触即発の状態であり、配な年末年始だった第37回優秀経営者顕彰が、国民レベルに広がる情報が危機を押し止す安心材料になった」と振り返った。その上で「国内は、今やうやく地方の大学生にベンチャーを立ち上げたいという機運が高まっている。この令和の時代が新しいスタートになるだろう。企業が学校との関係が強めていくことが重要だ」と述べた。

贈賞式の来賓であいさつした経済産業省の渡辺政嘉 中小企業庁経営支援部長は「多年に多くの出席者でぎわった」

## 優秀経営者顕彰 経済発展のけん引役に

渡る弛まぬ尽力が受賞につながっている。引き続き経済の発展のけん引役として活躍を期待したい」と祝した。

また、新春パーティーのあいさつに立った東京産業人クラブ会長の寺町彰博THK社長は「2020年はデジタル化は切っても切り離せない。オートメーション化が進み、19年と比べるとよくなっている」と述べた。

東京中小企業投資育成の望月晴文社長が乾杯のあいさつを務め、「企業のグローバル化が進む中で、地政学的な問題が多発している。何か起こった時に対応するリスクコントロールの準備ができていくことが最も大事だ」と語った。

### 優秀創業者賞

コンチネンタル 社長

岡田 幸雄氏



富山県で板金加工工業を主とする。顧客の7割が県外からで、これまで累計3500種類以上の板金製品を製造。5割以上の注文ロット数が「1個」と、多品種・小ロットで初回品、特注品が多い。

板金技能士資格の積極的取得を推奨するなど、人材育成を惜しまない。女性従業員の働きやすい環境構築にも配慮する。各種団体の視察・見学を積極的に受け入れ、地域経済活性化に貢献している。

生産設備、従業員への積極投資による技術、ノウハウの継承に力を入れる。業務時間内の外部研修参加や、